特集

低侵襲手術センター「外科」

記：外科医長　小川 俊博

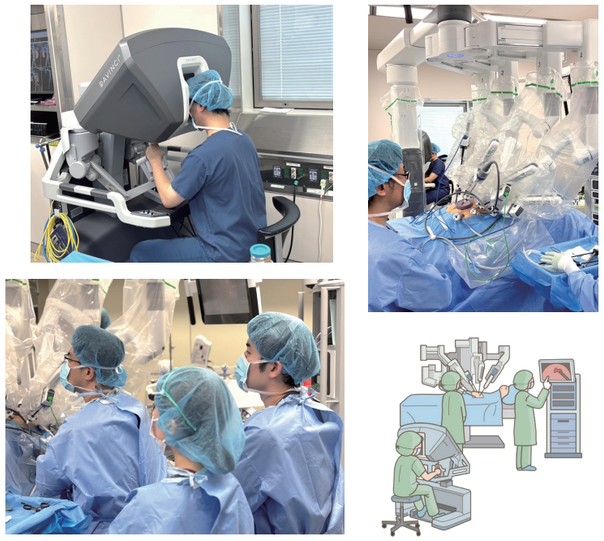
低侵襲手術センターでは、ロボット支援手術を中心とした低侵襲外科治療を提供しています。

ロボット支援手術は、術者の手の動きを忠実に再現する多関節鉗子と高精細 3D 画像を活用することで、従来の腹腔鏡手術では困難であった狭い空間での精密な操作を可能にします（図 1 参照）。その特長を生かし、重要な血管や神経を丁寧に温存しながら、根治性と安全性を両立した質の高い手術を目指しています。

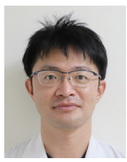
当科は山口県東部で唯一の食道外科専門医準認定施設、日本胃癌学会認定施設、日本肝胆膵外科学会高度技能医修練施設です。胃・大腸の悪性腫瘍を中心にロボット支援手術を積極的に導入するとともに、胸腔鏡手術、腹腔鏡手術を組み合わせ、それぞれの患者さんに最適な術式を選択しています。常に進化する医療技術を積極的に取り入れながら、安全性と治療効果を第一に考え、一人ひとりに最適な治療法をご提案します。地域の皆さまに安心して手術を受けていただけるよう、質の高い低侵襲医療を提供してまいります。

【図 1】手術支援ロボット『Da Vinci Xi』

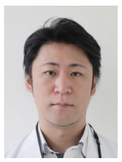
【当院のロボット支援手術】



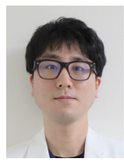
担当医師



堀 直人（大腸）
内視鏡技術認定取得医（大腸）
ロボット支援手術
プロクター（大腸）
日本ロボット外科学会専門医
(Robo Doc certificate)
（国内 B 級）



小川 俊博
（食道・胃・ヘルニア）
内視鏡技術認定
取得医（胃）
食道科認定医



大倉 友博
（肝胆膵・ヘルニア）
消化器外科専門医

診療内容

食道外科

食道がんに対する胸腔鏡下食道切除術を行っています。拡大視野を生かした精緻なリンパ節郭清に加え、術中神経モニタリングや ICG 蛍光法を導入し、術後合併症の低減にも取り組んでいます。

胃外科

胃がんに対する腹腔鏡手術およびロボット支援胃切除術を行っています。病状や進行度に応じて最適な術式を選択し、ロボットの特性を生かした精密な郭清と再建により、安全性と低侵襲性を両立した治療を提供しています。

大腸外科

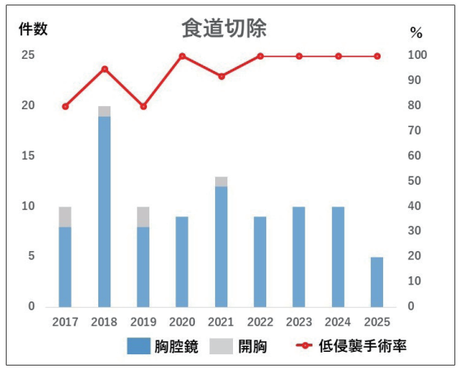
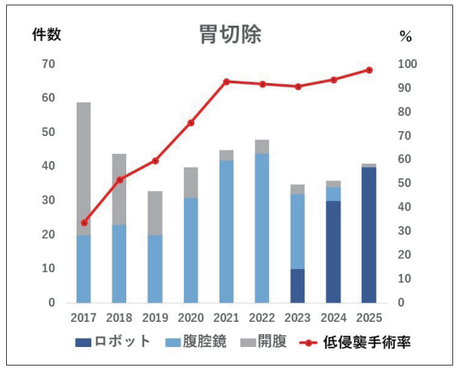
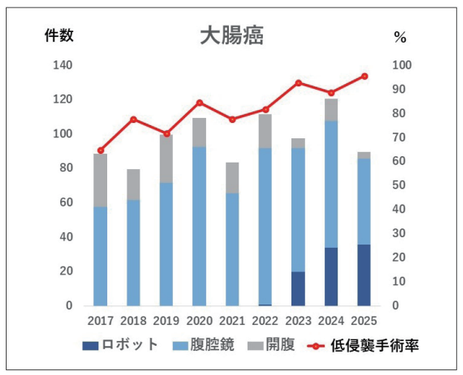
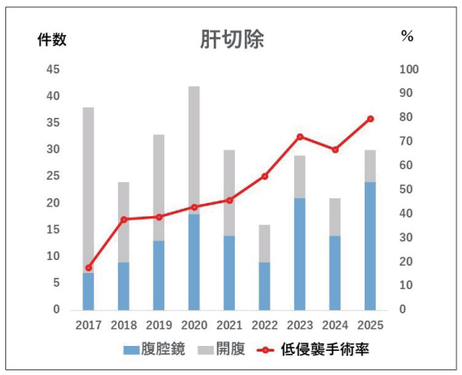
結腸がん・直腸がんに対する腹腔鏡手術およびロボット支援手術を行っています。特に直腸がんでは、骨盤深部での繊細な操作性を生かし、神経温存や肛門機能温存を重視した手術に取り組んでいます。

肝胆膵外科

肝臓・胆道・膵臓疾患に対して腹腔鏡手術を積極的に行っています。高度な技術を要する領域においても、患者さんの身体への負担軽減と安全性を重視し、適応を十分に検討した上で低侵襲手術を提供しています。

ヘルニア

鼠径ヘルニアに対して腹腔鏡手術（TAPP 法・TEP 法）およびロボット支援ヘルニア修復術を行っています。再発率の低下・早期社会復帰を目指して低侵襲手術に取り組んでいます。

今月号表紙は、当院の手術支援ロボット「ダヴィンチ xi」です。

症例数